

バイオ炭 特集

CO₂削減をJ-クレジット認証 目指したい売却収入とブランド化

地球温暖化による気候変動は、毎年さまざまな地域で農業に被害をもたらしている。温室効果ガス削減は農水省の「みどりの食料システム戦略」でも打ち出されており、農業分野での取り組みが期待されている。こうした中、土壌改良資材「バイオ炭（たん）」の農地施用の取り組みは、温室効果ガスの一つである二酸化炭素（CO₂）削減効果を国際的に認められ、今年6月には、農業分野の方法論として初めてJ-クレジット認証を受けた。この「バイオ炭」の施用に着目し、その効果や取り組み方、今後の展望について特集する。

CO₂を削減する土改材「バイオ炭」

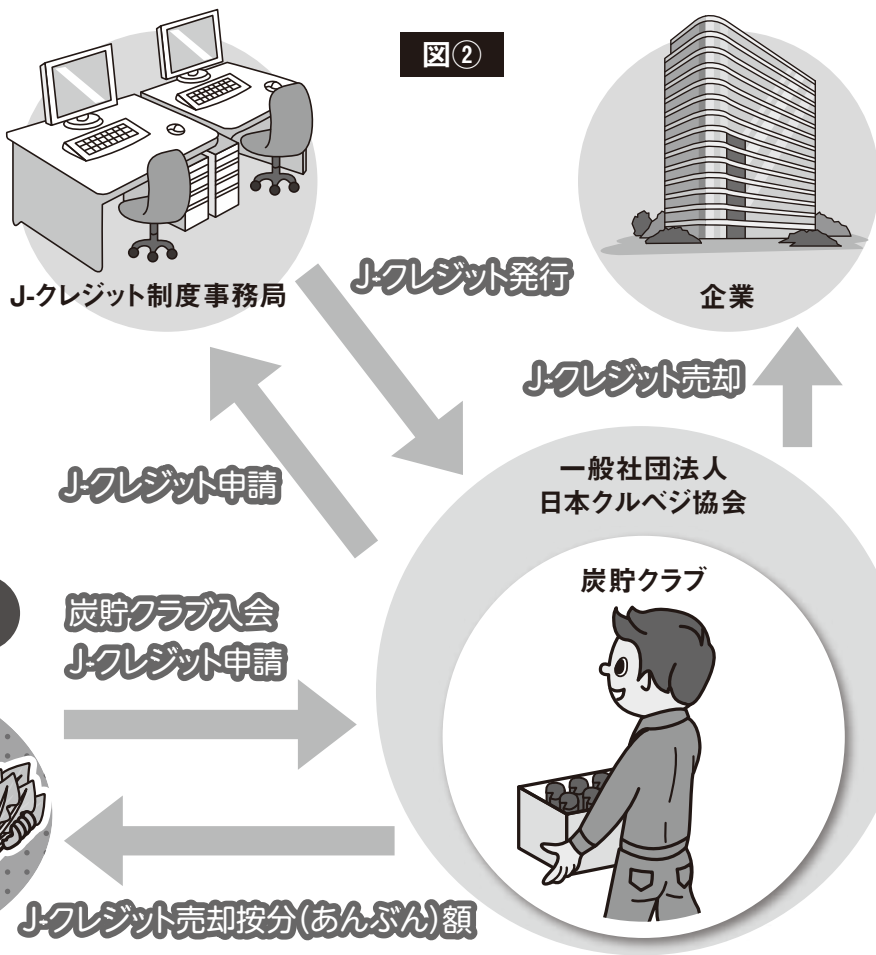
「バイオ炭」は、木や竹、もみ殻などのバイオマス（生物由来資源）を350度以上で炭化した土壌改良資材として多くの地域で利用されている。透水性の向上や固形物を指す。透水性等を高め、酸性土壌の中和などが期待できる。土壌の物理性・化学性の改善に役立つ。一般的な炭と

J-クレジット制度とは

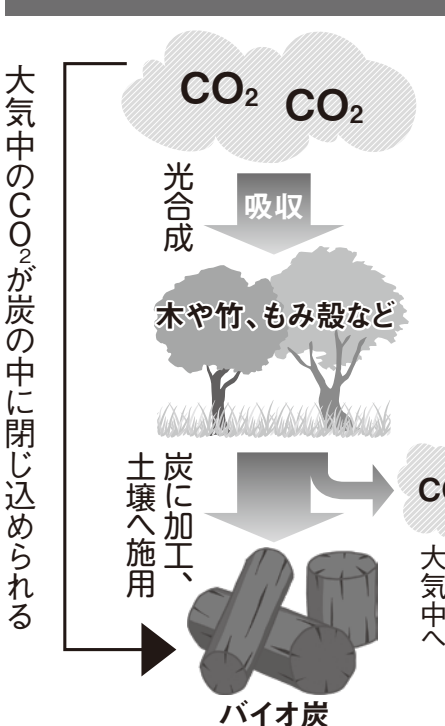
J-クレジット制度は、農林水産省、環境省、林野庁が運営する、CO₂等の排出削減量や吸収量を新たな価値とし、売買可能な「J-クレジット」として国が認証する制度。具体的には、①農地への「バイオ炭」施用②ボイラーや照明設備といった省エネルギー設備の導入③太陽光といった再生可能エネルギー設備の導入④植林・間伐などの適切な森林管理——などがJ-クレジット創出の対象となる。

農業者が対象手段を使ってCO₂を削減し、J-クレジット創出者となり、CO₂削減量や吸収量を企業・団体に売ることができれば、売却益を得られる。一方、J-クレジット購入者はCO₂削減量や吸収量を購入することで、CSR活動やカーボンオフセットといった目的を達成することができる。

日本クルベジ協会は、J-クレジット創出者となる農業者と、J-クレジット購入者である企業、団体等との仲介役として、認証を受けたクレジットを販売。売却が得た資金は、「バイオ炭」の取り組みに参加した農家個人・団体に還元する仕組みだ（図②）。



図①: バイオ炭によるCO₂削減のイメージ



「みどりの食料システム戦略」でも後押し

政府は、温室効果ガスの排出を2050年までに実質ゼロにする目標を掲げている。農林水産分野は30年度の排出削減目標を13年度比マイナス35%に設定。その中で、850万トンを農地への炭素貯留で減らす、としている。農水省は「みどりの食料システム戦略」で「バイオ炭」の農地

日本クルベジ協会が進める普及

日本クルベジ協会は、15年の設立以来、「クルベジCool Veggie」の普及を進めている。「クルベジ」とは、温室効果ガス削減につながる取り組みとして日本クルベジ協会が定めた基準で「バイオ炭」を施用し、生産された作物を指す。「バイオ炭」は、日本バイオ炭普及会で証明されたものを使用する。こうした同協会の取り組み



日本クルベジ協会・柴田代表理事

資材特性理解しさらなる活用を

「バイオ炭」は今後、生産した作物を「環境にやさしい農産物」としてブランド化する手段にもなる。期待がかかる。一方で、農家や農業法人が取り組みを進めていくには、「バイオ炭」の使い方やコスト、作業負担を理解することが重要だ。

「バイオ炭」を土壌に施用できる量は、農水省が上限の目安を示している。「バイオ炭」はアルカリ性であり、施用により土壌の水素イオン指数（pH）を上昇させるためだ。栽培作物や土壌の性質を踏まえた施用が大切だ。日本クルベジ協会によれば、「バイオ炭」は、1000～2500円のコストがかかる場合が多い。農水省の環境保全型農業直接支払交付金のうち、「地域特認取組」を活用すれば、一定額の助成が受けられるケースもある。

皆さまでともに これからもっと、バイオ炭！

（一社）日本クルベジ協会のバイオ炭の取り組みは、第1回の申請で247トンのJ-クレジットが認証されました！

37の団体・個人農家の皆さまのおかげです。本当に感謝申し上げます。（一社）日本クルベジ協会は早期の完売を目指し、排出枠購入に協賛いただける企業・団体様の輪を広げて参ります。

ご購入企業・団体各社様一覧（ご希望された企業・団体様のみ掲載）

Marubeni
丸紅株式会社

下川運輸株式会社
下川運輸株式会社

SUNYOU
三友工業株式会社

R
RITSUMEIKAN
立命館大学

ASA GIRI CORPORATION
株式会社アサギリ

人・夢・技術グループ株式会社
人・夢・技術グループ株式会社

SINANEN
シナネンホールディングス株式会社

人・夢・技術株式会社
株式会社社長大

排出枠ご購入企業・団体各社様への感謝の言葉

一般社団法人 日本クルベジ協会 代表理事 柴田 晃

この度のバイオ炭埋設により創成されたJ-クレジットを、すでに多くの企業・団体の方々にご購入いただいております。これらの企業・団体様におかれましてはバイオ炭による炭素貯留を通じたJ-クレジットが単なるCO₂削減でなく、二酸化炭素吸収による長期炭素隔離（120～10000年以上）という趣旨をご理解いただき、かつ林業・農業・農作物の流通を通じた地域振興という視点を鑑みて、ご購入いただいたことは感謝に堪えません。この紙面をお借りして深謝申し上げます。

目指せ1000トン！
第2回 バイオ炭埋設J-クレジット申請募集中！

目標達成次第もしくは本年11月末頃に申し込みを締め切ります。2023年3月15日開催予定の第54回J-クレジット制度認証委員会に合わせた申請となります。今年度、（一社）日本クルベジ協会は、CO₂埋設量1000トンを目標にしています。みんなでどんどんバイオ炭施用を促進し、1000トン以上のCO₂削減を目指して頑張りましょう！バイオ炭を始めた方への相談も受け付けています。

申請をする前に「バイオ炭活用の道」

1 炭貯クラブへの入会からクレジット申請

① 炭貯クラブ入会届提出（入会金・年会費無料）
炭貯クラブ入会届
炭貯クラブ入会届
炭貯クラブ入会届

② バイオ炭の調達
日本バイオ炭普及会（JBA）バイオ炭品質証明書付バイオ炭の購入または
バイオ炭の自作
※JBAバイオ炭品質証明書発行の加入とJBAバイオ炭品質証明書の発行が必要

③ バイオ炭の農地への施用
バイオ炭の農地への施用

④ プログラム参加申請
必要書類提出と参加費の支払い
第2回プログラム参加申請書
納品書・領収書のコピー
バイオ炭品質証明書のコピー

2 J-クレジット認証

認証された分のクレジット売却益が還元されます

3 ブランド野菜「クルベジ」の販売もできる！

1トン以上のCO₂を削減した場合、環境保全地域ブランド野菜であることを示す「クルベジ」が無償で使えます（J-クレジットの認証とは異なります）

「クルベジ」で環境保全＆収益アップを目指そう！

